

令和8年2月10日

2026-2月（国内評価）トピックス

（独）家畜改良センター
改良部情報分析課

1. 乳用牛（ホルスタイン種）の2026-2月評価における変更点

2026-2月評価からの変更点は次の4点になります。①総合指数（NTP）の変更を行いました。総合指数は、産乳成分、耐久性成分、疾病繁殖成分の3つの成分から構成されていますが、疾病繁殖成分に2025-8月評価から公表を開始した“疾病抵抗性指数”を新たに導入しました。また、産乳成分内の乳脂量と乳蛋白質量の重みの見直しを行い、乳脂量と乳蛋白質量の重みの比率をこれまでの2:3から1:1に変更しました。②遺伝ベースの変更を行いました。遺伝評価値は平均的な個体（※基準となる年（遺伝ベース年）に生まれた雌牛集団）に交配した時に期待される遺伝的改良量を表すことが望ましいことから、遺伝ベース年をこれまでの2015年から2020年生まれの雌牛集団に変更しました。③中程度が望ましい体型形質の最適なSBVの値の変更を行いました。体型形質のうちスコア1～9で審査される線形形質の遺伝評価値は、遺伝ベース年生まれの雌牛集団の平均値をゼロ、標準偏差を1とした標準化育種価（SBV）で表示されています。線形形質のうち8つの形質（BCS、尻の角度、後肢側望、蹄の角度、乳房の傾斜、前乳頭の配置、後乳頭の配置、前乳頭の長さ）は中程度なスコアが望ましいとされていますが、上述の遺伝ベースの変更に伴いこれら8つの線形形質の中程度なスコアとなるSBVの値が変化するため、各形質の最適なSBVの値を変更しました。④搾乳ロボット適合性における各形質の適正範囲の変更を行いました。“搾乳ロボット適合性”は、4つの線形形質（乳房の深さ、前乳頭の配置、前乳頭の長さ、後乳頭の配置）、搾乳性及び体細胞スコアの遺伝評価値が適正範囲の種雄牛に「R」または「R+」が表示されますが、上述の遺伝ベースの変更に伴い各形質の遺伝評価値の適正範囲の変更を行いました。これら変更点の詳細につきましては、以下のリンクの「[2026-2月*](#)」をご参照ください。

*<https://www.nlbc.go.jp/kachikukairyo/iden/nyuyogyu/hensen.html>

2. 新規種雄牛

今回、3頭の新規種雄牛が選抜されています。

総合指數順位	略号	名号	総合指數 信頼度(%)		産乳成分	耐久性成分	疾病繁殖成分	父
			信頼度(%)	総合指數				
10	JP5H60764	ML サラビータ	+3,073	82	+242	+80	-46	S-S-I テルトイ ピケロ ET
12	JP4H60739	ハツピークロス テクラン	+3,046	84	+249	+58	-58	ウイルラ S-S-I テサイア テクラン ET
23	JP2H60755	NLBC ラビング リスモア ET	+2,982	80	+133	+129	+59	フェアレディ ラビット ハニー